

2009年12月1日

## 医療機器 中国需要を開拓 現地生産を強化

(日本光電、日立メディコ)

医療機器メーカーが中国での生産を拡大する。日立メディコは低価格の画像診断装置の生産を始めた。計測機器大手の日本光電は、操作方法をわかりやすくした製品を開発し、来年にも現地生産する。中国では今後、農村部を中心に医療体制が整備される見通し。成長が期待される中国需要を取り込むとともに、新興国への輸出もにらんで生産体制を整える。

日立メディコは生産子会社の日立医療系統(蘇州)に2億円を投じて製造設備を増設した。磁気共鳴画像装置(MRI)や超音波診断装置、エックス線撮影装置など標準的な機能を備えた汎用品の生産を順次、始める。

MRIでは撮影時に使う磁場が弱く割安な普及機種を中心に、既存製品の生産を国内から移管する。2010年度の中国子会社の出荷台数を09年度目標の2倍に拡大。早期に世界出荷台数の3割前後に相当する年間100台に引き上げる。

超音波診断装置では、上位機種と同等の画質ながら操作部を簡素化し生産コストを2～3割低減した新製品を開発。10年以降に中国子会社で生産する。

日本光電は心拍や呼吸など計測する生体情報モニターの新機種を開発した。操作方法を本画面にイラストを表示するなど、医療水準が高くない地域での使用を想定した仕様にした。10年度にも中国で発売を目指す。子会社の上海光電医用電子儀器(上海市)で生産する。

日本で生産していた心電計の汎用品なども中国子会社で生産を始める予定。現地子会社で10年度に中国向け製品開発も始め、15年度に100億円の売上高を目指す。

旭化成子会社の旭化成クラレメディカル(東京・千代田区)は中国でも利用が増え始めた人工透析治療で使うフィルター状の人工腎臓を、現地生産する。従来、中国の拠点では日本向けの製品を生産してきたが、現地仕様の機種を追加する。

中国では最先端の医療施設を除き、多くの病院では中国メーカー製の医療機器が大半を占めている。中国政府は都市部に比べて遅れていた農村部の医療体制整備を急いでおり、より高性能な機種へのシフトが進みつつある。価格競争が激しいため、日本の機器メーカーは現地生産体制の拡充を迫られている。

＝日本経済新聞＝